

第3章 施策の展開方向

② 園芸（野菜・果樹・花き）

【現状】

〈露地野菜〉

- ・ たまねぎ、ブロッコリー、野菜うり、露地なすやその他に伝統野菜として青しまうり、女山大根、桐岡なすなどが作付けされています。
- ・ 水田では、米、麦、大豆が主に作付けされていることから、露地野菜の作付けは少ない状況です。
- ・ 畑地に比べて排水性が悪い水田では、露地野菜の生産が難しい状況にあります。
- ・ たまねぎ、ブロッコリー・青しまうり・露地なすの4品目については、地域振興作物として、産地交付金により産地化に向けた支援を行っております。

〈施設野菜〉

- ・ いちご、アスパラガス、なすなどの施設野菜が栽培されています。
- ・ 燃油やハウス部材、肥料などの生産資材価格の高騰によるコスト増などで、収益性が低下しており、経営面積は縮小傾向にあります。
- ・ いちごについては、20年ぶりの新品種「いちごさん」が平成30年産からデビューし、「さがほのか」からの切替えが進んでいます。

〈果樹〉

- ・ 中山間地域を中心に、露地みかん、ハウスみかん、中晩生かんきつ、桃、梨、ビワ、ウメ等の地域特性に応じた産地が形成されています。
- ・ 当産地の基幹作物は、温州みかんであり、適地適作の中で品質も良く、高い評価を受けています。中晩生かんきつは、不知火、はるみ等優良品種への転換が進み、施設、露地栽培とも高い評価を得ています。香酸柑橘類や落葉果樹は、立地条件を活かし、レモン・桃・スモモ・梨・ビワ・ウメ等を複合経営の一端として振興をはかっています。
- ・ 果樹農家数は、減少傾向にあり、特に生産の主体と期待される主業農家が高齢化と後継者不足を主因に大きく減少しています。

〈花き〉

- ・ バラ、キク等の切り花や花苗などが栽培されています。
- ・ 生産資材価格の高騰などにより、農家経営の収益性が低下しています。
- ・ 生活様式の変化等により花きの需要が減少しています。

【課題】

〈共通〉

- ・ 園芸作物は、高収益が見込める作物ですが、重労働や人手不足により作付面積が伸び悩んでおり、作業の効率化や労働負担の軽減が図られるよう施設の整備等を推進する必要があります。
- ・ 高品質化や低コスト化を進め、生産者の収益性向上を図る必要があります。
- ・ 担い手の経営体質の強化や、産地を支える新たな担い手を確保する必要があります。

〈露地野菜〉

- ・ 水田における露地野菜の生産拡大を図るためには、集落営農法人や個別経営体等において、米、麦、大豆の作付体系に新たに露地野菜を組み入れていく必要があります。
- ・ 露地野菜を安定的に生産、出荷するためには、需要の把握から、契約、生産、出荷、販売に至るまで、全体的な調整を行いながら計画的に進めていく必要があります。

〈施設野菜・果樹・花き〉

- ・ 生産資材価格等が高止まりする中で今後も農業経営を継続していくためには、低コスト化を図り、収益性を高める必要があります。

〈果樹〉

- ・ 意欲ある担い手に優良園地を集積する必要があります。

〈花き〉

- ・ 消費者ニーズに即した花きを効率よく安定的に生産・供給していく必要があります。

【展開方向】

〈共通〉

- ・ 収益性を高めるため、省力化や機械化により面積拡大を図り、収量・品質の向上や低コスト化を推進します。
- ・ 就農サポートや経営継承等により産地を支える新たな担い手の確保・育成に取り組み、産地の維持・発展につなげます。

〈露地野菜〉

- ・ 集落営農組織や個別経営体等への露地野菜の作付を推進します。
- ・ 加工・業務用需要に対応するため、広域に連携した計画的かつ安定的な生産・販売体制の整備を進めます。

〈施設野菜〉

- ・ 統合環境制御技術など最先端技術の普及を進めます。

〈果樹〉

- ・ 改植事業を活用した優良品種の普及・拡大や根域制限栽培等の導入による高品質果実の生産拡大、省力機械・技術の導入による省力化や低コスト化を推進します。
- ・ 優良園地の担い手への集積や園地基盤整備などの取組を進めることで生産性の向上を図ります。

〈花き〉

- ・ 産地間競争に負けない花づくりや露地花きの作付を推進します。

【主な具体的取組】

〈共通〉

収量・品質の向上や低コスト化の推進

- ・ さが園芸生産 888 億円推進事業に基づいて、生産部会等が策定する「園芸産地計画」に沿った園芸振興の取り組みを支援し、省力化機械・装置の導入や施設整備の推進

最先端技術の普及推進

- ・ 労働環境の向上や農作業の効率化・省力化などのために、スマート農業^(※)の導入の推進

産地を支える新たな担い手の確保・育成

- ・ 就農サポートや経営継承等による新規就農者の確保・育成
- ・ 雇用の導入による規模拡大や法人化を目指す経営体の育成



ドローンによる農薬散布

※スマート農機

A I ・ I o T 等により自動走行や生育データの収集などが可能な農業機械のこと。

〈露地野菜〉

集落営農法人や個別経営体等への露地野菜の作付の推進

- ・ 米、麦、大豆の作付体系に導入しやすい露地野菜の作型の提案
- ・ 水田の汎用化^(※)のための暗渠排水等の整備の推進
- ・ 安定生産に向けた土づくりの推進
- ・ 伝統的農産物の振興を図るとともに、栽培されている在来種等伝統野菜の保存・伝承に努める
- ・ 関係機関と連携を図り多久市にあった品目等について検討
- ・ 地域振興作物4品目（たまねぎ、ブロッコリー・青しまうり・露地なす）の作付の推進

広域に連携した計画的かつ安定的な生産・販売体制の整備

- ・ 農協、加工業者、県等による計画・安定出荷に向けた体制の整備
- ・ 計画的な出荷のための複数の生産者が広域に連携した生産の推進
- ・ 安定した販売先の開拓と契約栽培の推進

〈施設野菜〉

収量・品質の向上や低コスト化の推進

- ・ 「さがほのか」から新品種「いちごさん」への切替えの推進
- ・ 園芸ハウスの低コスト化に向けた離農者ハウスの継承や施設リースの検討
- ・ ハウス内環境測定装置の導入による「見える化」の推進

〈果樹〉

果実の高品質化や省力・低コスト化の推進

- ・ マルチ栽培や根域制限栽培並びにジョイント仕立て栽培^(※)などの、省力化や高品質果実生産が可能な栽培技術の導入推進

優良園地の集積や園地基盤整備等の推進

- ・ 傾斜の緩和や園内道整備等の園地基盤整備による生産性の向上
- ・ 優良な園地の荒廃を未然に防ぐとともに、若い担い手等へ流動化、園地集積を推進。

〈花き〉

産地間競争に負けない花づくりと新規作付の推進

- ・ 優良品種の導入やホオズキなどの露地で栽培しやすい品目の作付推進

担い手の経営体質の強化

- ・ 環境制御装置の導入推進

※水田の汎用化

水田に排水路や暗渠を整備することで、水田でも麦、大豆、露地野菜などの畑作物を栽培できるようにすること。

※ジョイント仕立て栽培

神奈川県で開発された、樹と樹をつなげて早期成園化を目指す栽培法のこと。苗を密植で植えるため成園化が早く、未収益期間を短縮できるとともに、樹形が単純化されて整枝剪定が容易になる等の効果がある。